

17. 保健学研究科

I	保健学研究科の教育目的と特徴	17-2
II	「教育の水準」の分析・判定	17-3
	分析項目 I 教育活動の状況	17-3
	分析項目 II 教育成果の状況	17-14
III	「質の向上度」の分析	17-21

I 保健学研究科の教育目的と特徴

保健学研究科の教育目標

本研究科は、「ヘルスプロモーション」を博士前期・後期課程を通じての根幹的教育概念とするとともに、その教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を掲げている。

全人的ケアとは、深い倫理観と人間愛の上に個々の人間を生物学的のみならず社会的存在として捉え、対象となる人々、家族及び地域の保健・医療・福祉の問題点を的確に把握し実践するケアを指す。また**チームケア**は、ヘルスプロモーションの参加に当たって、その専門性をもって他の分野の人々と協動的に交流と連携ができ、時にはリーダーシップを発揮してケアすることを意味している。

博士前期課程では、コメディカル分野の高度専門職や専門性の確立に貢献できる医療者と教育・研究者の養成を目標としている。また、博士後期課程においては、看護学・放射線技術科学・検査技術科学各分野の専門的基礎知識を基に、保健・医療・福祉に関係したプログラム・システム・機器・技術の研究開発能力をもった教育・研究者の養成を目指している。

(1) 養成すべき人材像

- 質の高い臨床実践能力をもつコメディカル（高度専門職業人）
- 保健・医療・福祉の医療現場におけるコメディカルの質的向上と支援システムの構築ができ、健康づくりの拠点として、地域との共生と社会への発信が推進できる人材
- 創造力と課題探求型思考をもち、高度かつ新しい専門教育の展開を行い、各々の専門分野で臨床・教育・研究の指導的役割が担える人材
- 国際的視野をもち国際貢献のできる人材

(2) 教育の成果・進路の目標

- 博士前期課程修了者は保健・医療・福祉の現状と諸問題を認識し、質の高い実践能力を身につけ基礎領域の研究や臨床研究ができる。
- 博士後期課程修了者は保健医療福祉機関でインタープロフェッショナルワークを実践し、基礎研究、臨床研究をリード、支援できる。
- 進路の目標は保健医療福祉機関や教育機関で活躍することである。

本研究科は博士前期課程、後期課程別にそれぞれアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、公開している（別添資料1）。

保健学研究科の特徴

- 平成10年10月に医学部に保健学科が設置され、平成15年4月には大学院保健学研究科（修士課程）が、続いて平成17年4月には大学院保健学研究科（博士後期課程）が設置された。平成20年3月に博士後期課程の修了生を初めて輩出した。
- インタープロフェッショナルワークを基盤としたヘルスプロモーション科学の確立を目指した大学院教育を行っている。
- 質の高い高度専門職業人養成のための新たな教育システムの設置を進めている。平成20年度には、看護学分野に専門看護師養成コース、放射線技術科学分野に医学物理士コースを開設、平成25年度には、看護学分野に助産学コースを開設した。

〔想定する関係者とその期待〕

想定する関係者は保健・医療・福祉に参画する全ての人々、広く医療行為を受ける国民と考えられ、臨床・教育・研究の指導的役割が担える人材の育成が期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

本研究科は博士前期課程1専攻と博士後期課程1専攻からなる。両課程にそれぞれ看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3分野を置く。

本研究科の教員組織を示す(資料Ⅱ-I-1)。看護学分野に基礎看護学、成育看護学、臨床応用看護学、コミュニティヘルス看護学の4領域、放射線技術科学分野に医用情報理工学と放射線健康支援科学の2領域、検査技術科学分野に病態情報科学と生体情報科学の2領域を置き、各領域に教員を配置する。女性教員の割合は、教授35%、准教授53%であり、教員全体でも54%と約半数が女性である。

専任教員数は資料Ⅱ-I-2のとおりであり、博士前期課程、後期課程とも大学院設置基準を上回っている。

資料Ⅱ-I-1：保健学研究科教員組織

平成27年5月1日現在(単位：人)

	教授	准教授	講師	助教	計
保健学専攻	23 (8)	15 (8)	2 (2)	19 (14)	59 (32)
看護学分野					
基礎看護学領域	2 (1)	2 (2)		1 (1)	5 (4)
成育看護学領域	3 (2)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	8 (7)
臨床応用看護学領域	3 (2)	1 (1)		3 (3)	7 (6)
コミュニティヘルス看護学領域	3 (3)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	9 (9)
看護学分野 計	11 (8)	6 (6)	2 (2)	10 (10)	29 (26)
放射線技術科学分野					
医用情報理工学	2 (0)	3 (1)		2 (0)	7 (1)
放射線健康支援科学	4 (0)	2 (0)		3 (0)	9 (0)
放射線技術科学分野 計	6 (0)	5 (1)		5 (0)	16 (1)
検査技術科学分野					
病態情報科学	3 (0)	2 (0)		3 (3)	8 (3)
生体情報科学	3 (0)	2 (1)		1 (1)	6 (2)
検査技術科学分野 計	6 (0)	4 (1)		4 (4)	14 (5)

()内は女性で内数

(出典：保健学研究科教務資料)

資料Ⅱ-I-2：保健学研究科専任教員数

平成27年5月1日現在(単位：人)

	大学院設置基準上の必要教員数			専任教員数(現員)		
	研究指導教員	(内数：教授)	研究指導教員と研究指導補助教員の計	研究指導教員	(内数：教授)	研究指導教員と研究指導補助教員の計
博士前期課程保健学専攻	6	4	12	36	23	38
博士後期課程保健学専攻	6	4	12	36	23	37

(出典：保健学研究科教務資料)

2 入学者選抜方法の工夫とその効果

優秀な学生を獲得するための取組

博士前期課程、後期課程とも、定員はほぼ毎年満たしている（資料Ⅱ－Ⅰ－3）。

本研究科が入学者として求める学生像や必要な水準等を示したアドミッションポリシーを作成し、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとともにホームページ等で公表し、周知を図っている（別添資料1）。入学者の選抜では、特に助産師、がん看護専門看護師等、高度医療専門職の養成を目的としたコースで優秀な学生を確保するため、学力に加えて、志願者の適性、目的意識、コミュニケーション能力等の面接及び小論文を入試科目に加えている。

資料Ⅱ－Ⅰ－3：保健学研究科志願倍率と入学定員充足状況

入学年度	博士前期課程 入学定員 26 名		博士後期課程 入学定員 10 名	
	志願者 (志願倍率)	入学者数 (定員充足率)	志願者 (志願倍率)	入学者数 (定員充足率)
平成 22 年度	32 名 (1.2 倍)	28 名 (108%)	23 名 (2.3 倍)	12 名 (120%)
平成 23 年度	37 名 (1.4 倍)	26 名 (100%)	12 名 (1.2 倍)	11 名 (110%)
平成 24 年度	40 名 (1.5 倍)	30 名 (115%)	11 名 (1.1 倍)	11 名 (110%)
平成 25 年度	31 名 (1.2 倍)	25 名 (96%)	12 名 (1.2 倍)	10 名 (100%)
平成 26 年度	39 名 (1.5 倍)	25 名 (96%)	11 名 (1.1 倍)	8 名 (80%)
平成 27 年度	40 名 (1.5 倍)	26 名 (100%)	14 名 (1.4 倍)	13 名 (130%)

(出典：保健学研究科教務資料)

社会人学生の受入れ

高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレーショナルリサーチを促進する意味からも、社会人学生を積極的に受け入れている（資料Ⅱ－Ⅰ－4）。博士前期課程は在籍者の半数前後、博士後期課程は9割前後が社会人学生である。ここでいう社会人学生とは、医療機関や教育機関等の職場に在職したまま夜間・土曜日開講の講義を受けている学生、すなわち正規の大学院生である。本研究科が開設する各コースのうち、助産学コース以外はどのコースも社会人学生が在籍することは可能であり、特にがん看護専門看護師養成コースは、他の大学院のコースが社会人受入れが少ない中で、在職のままその資格を取得できるように、授業の開講時間や実習の実施時期に工夫を凝らしている。

資料Ⅱ－Ⅰ－4：社会人在籍者数の推移（各年度5月1日現在）

年度	博士前期課程		博士後期課程	
	在籍者数	うち社会人学生	在籍者数	うち社会人学生
平成 22 年度	72 名	45 名 (62.5%)	72 名	65 名 (90.3%)
平成 23 年度	65 名	38 名 (58.5%)	76 名	68 名 (89.5%)
平成 24 年度	66 名	33 名 (50.0%)	80 名	73 名 (91.3%)
平成 25 年度	66 名	28 名 (42.4%)	73 名	67 名 (91.8%)
平成 26 年度	60 名	28 名 (46.7%)	67 名	63 名 (94.0%)
平成 27 年度	61 名	23 名 (37.7%)	68 名	62 名 (91.2%)

(出典：保健学研究科教務資料)

3 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

FD 活動の充実

本研究科の教員は、本学教育開発センターFD委員会に委員として参画するとともに、全学FD活動「桃太郎フォーラム」に毎年平均10名が参加し、教育力等の向上に努めている（資料Ⅱ-I-5）。また、英語によるコースワークを行う教員は、海外留学生の受入れ増加に合わせて、英語授業セミナーを受講している。

資料Ⅱ-I-5：「桃太郎フォーラム」参加者数

年度	参加者数
平成 22 年度	11 名
平成 23 年度	10 名
平成 24 年度	11 名
平成 25 年度	10 名
平成 26 年度	6 名
平成 27 年度	11 名

（出典：保健学研究科教務資料）

4 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

教育指導体制の明確化

保健学研究科教務会に、委員長と各分野教員2名（看護学分野のみ3名）からなる教務委員会を置いている。平成27年度は教務委員会を14回開催した。学生の進級及び修了判定は、教務委員会で審議された後、専任教授が全員出席する教授会が行っている。カリキュラム編成、シラバス作成等の教育の企画も教務委員会が担当している（資料Ⅱ-I-6）。その前段階として、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各分野の教授による分野毎の審議が行われており、教授会以前にダブルチェックが働く仕組みとなっている。

資料Ⅱ-I-6：教務委員会審議事項

一	教育課程に関すること。
二	授業計画の立案に関すること。
三	授業担当教員（非常勤講師を含む。）に関すること。
四	試験の実施要領に関すること。
五	教育設備の充実に関すること。
六	履修に関すること。
七	学生の異動に関すること。
八	研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生の受入に関すること。
九	シラバスの作成に係る企画、立案及び編集に関すること。
十	外国人留学生の受け入れに関すること。
十一	外国人留学生の教育・指導に関すること。
十二	その他教務に関する重要な事項に関すること。

（出典：岡山大学医学部保健学科・大学院保健学研究科教務委員会内規）

ヘルスプロモーション教育のリニューアル

根幹的教育概念であるヘルスプロモーション教育のコア科目の内容と進め方について、毎年、学生の授業評価アンケートと聞き取り調査の結果、研究成果、修了後の進路をもとに、担当教員と教務委員で検討して、内容の充実、レベルアップを図っている。一例として、疫学研究や多数のヒトの検体を分析する研究においては、十分な疫学、統計学の知識がないためデータの解析に苦慮している学生が多いことへの対応策として、平成23年度か

ら博士後期課程に実践科学統計学という専門家によるシリーズ講義を設け、博士前期課程学生も受講できるようにした。また、医歯薬学総合研究科で開講する医療統計学講義・演習、疫学講義の履修も推奨している。

オープンフォーラムの開催

研究科内での研究成果共有、学生の教育・研究力向上を主目的として、平成 16 年度から年 1 回オープンフォーラムを開催しており、毎年多くの学部学生、大学院生が参加している。平成 25 年度のフォーラムはメインテーマを「大学院生による国際活動を熱く語る」とし、シンポジウムでは 3 名の大学院在学学生及び修了生がパネリストとして発表した。平成 26 年度は「地域医療に貢献する」とし、シンポジウムでは、看護学分野、放射線技術科学分野、検査技術科学分野から各 1 名の教員がパネリストとして意見等を述べ、約 70 名の学生が聴講した（資料Ⅱ－Ⅰ－7）。

資料Ⅱ－Ⅰ－7：オープンフォーラムへの大学院学生の参加数、() 内は参加総数

平成 25 年度 保健学研究科オープンフォーラム

参加者：大学院生 12 名、学部生 64 名（全参加者数 185 名）

発表者：シンポジウム「大学院生による国際活動を熱く語る」

博士前期課程・看護学分野 修了生

博士前期課程・放射線技術科学分野 学生

博士前期課程・検査技術科学分野 修了生

平成 26 年度 保健学研究科オープンフォーラム

参加者：大学院生 9 名、学部生 54 名（全参加者数 174 名）

発表者：シンポジウム「地域医療に貢献する」

看護学分野 岡本玲子「予防の専門職を育てる」

放射線技術科学分野 笈田皇将

「地域を担う高度放射線医療技術者の人材育成と岡山大学の役割」

検査技術科学分野 佐藤妃映「住民がん検診と細胞検査師教育」

※平成 27 年度のテーマは、「60 分授業・クォーター制導入により学びが変わる」（大学院は導入なし）

（出典：保健学研究科オープンフォーラム実行委員会）

（水準） 期待される水準を上回る

（判断理由）

教員組織は、女性教員比率が 54%と、ダイバーシティを体現したバランスの良い構成となっており、専任教員数も、大学院設置基準を十分に満たしている。入学定員はほぼ充足しており、夜間・休日に授業を行う等の工夫により、現職の社会人学生を正規生として多数受け入れた。教員は、FD 活動に積極的に参加した。教務委員会が、教育プログラムの企画、改善等で活発に活動したほか、アンケート調査結果等の PDCA サイクルへのフィードバック等、教育プログラム改善のための体制を確立した。公開実施される保健学研究科オープンフォーラムへの学生参画など、将来の保健・医療・福祉の担い手としての学生のモチベーション、教育・研究力を高めた。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 体系的な教育課程の編成状況

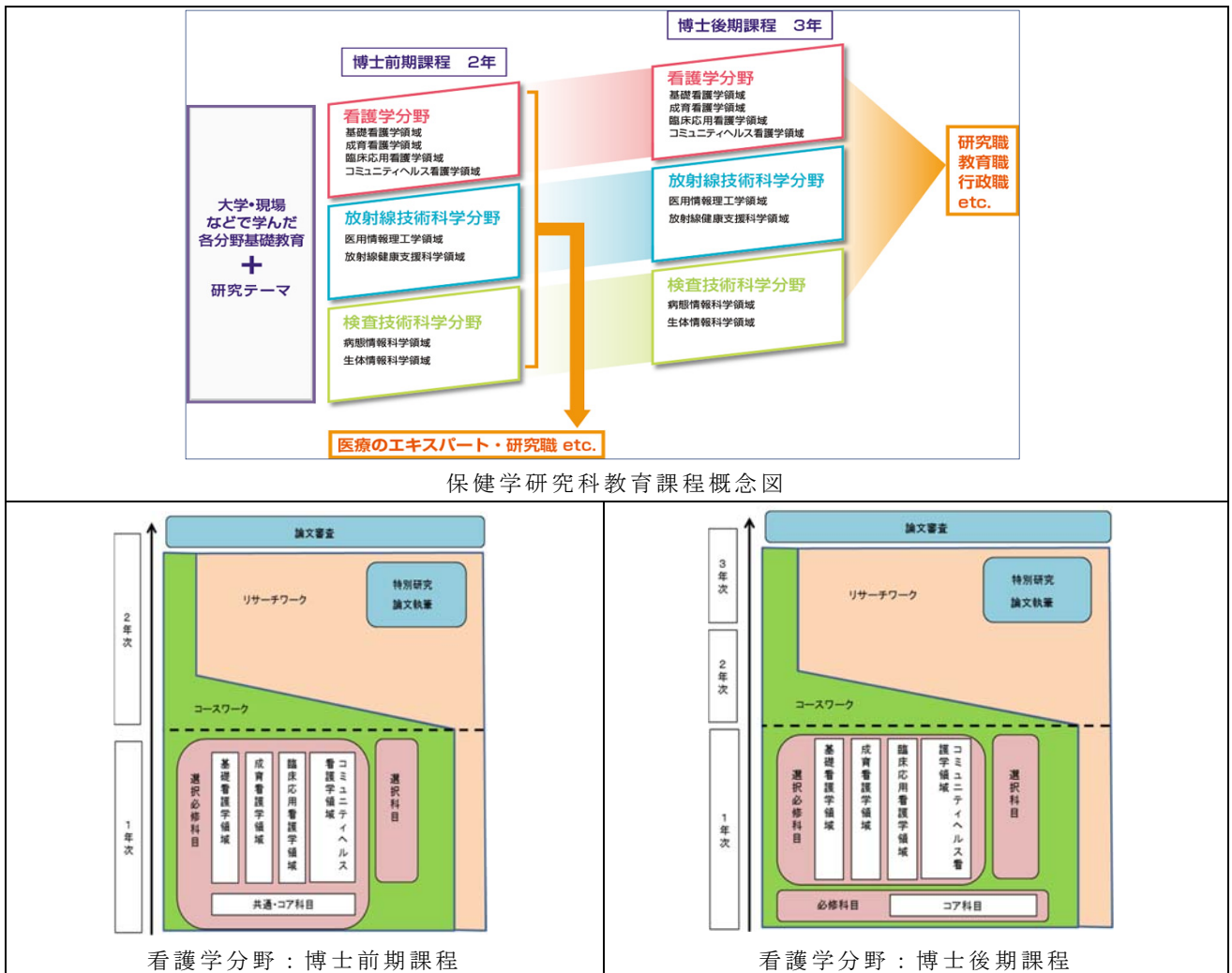
チームケア・全人的ケアを志向した教育課程

根幹的教育概念であるヘルスプロモーション及び教育理念の全人的ケア・チームケアを具現化するため、博士前期課程では全分野共通のコア科目として、ヘルスプロモーション科学、医療倫理学、危機管理学、医療対話学、国際保健学を、博士後期課程ではインタープロフェSSIONALワーク論を据えている。特に博士後期課程では、インタープロフェSSIONALワーク論を必修科目とし、全人的ケアをチームとして提供するための基礎を学ぶ。

コースワークとリサーチワークを組み合わせた教育課程の編成

根幹的教育概念ヘルスプロモーションを実践できる人材の養成のため、博士前期課程、後期課程では、各分野でコースワークとリサーチワークを組み合わせて教育課程を編成し、カリキュラムマップとしてわかりやすく提示している(資料Ⅱ-I-8)。博士前期課程では、学部での基礎教育、現場での体験をベースに、専門性を深化し研究の基盤を学び、医療のエキスパートをめざし、博士後期課程ではさらに研究テーマを定めて研究職、教育職の基盤を学ばせている。

資料Ⅱ-I-8：保健学研究科教育課程概念図とコースワークとリサーチワークを組み合わせたカリキュラムマップの例示(看護学分野：博士前期課程、博士後期課程)



(出典：保健学研究科教務委員会資料)

また、ミッションの大きな柱である高度専門職業人養成のため、がん看護専門看護師コース、助産学コース、医学物理士コース、細胞検査士コース等の特別コースを設けている。

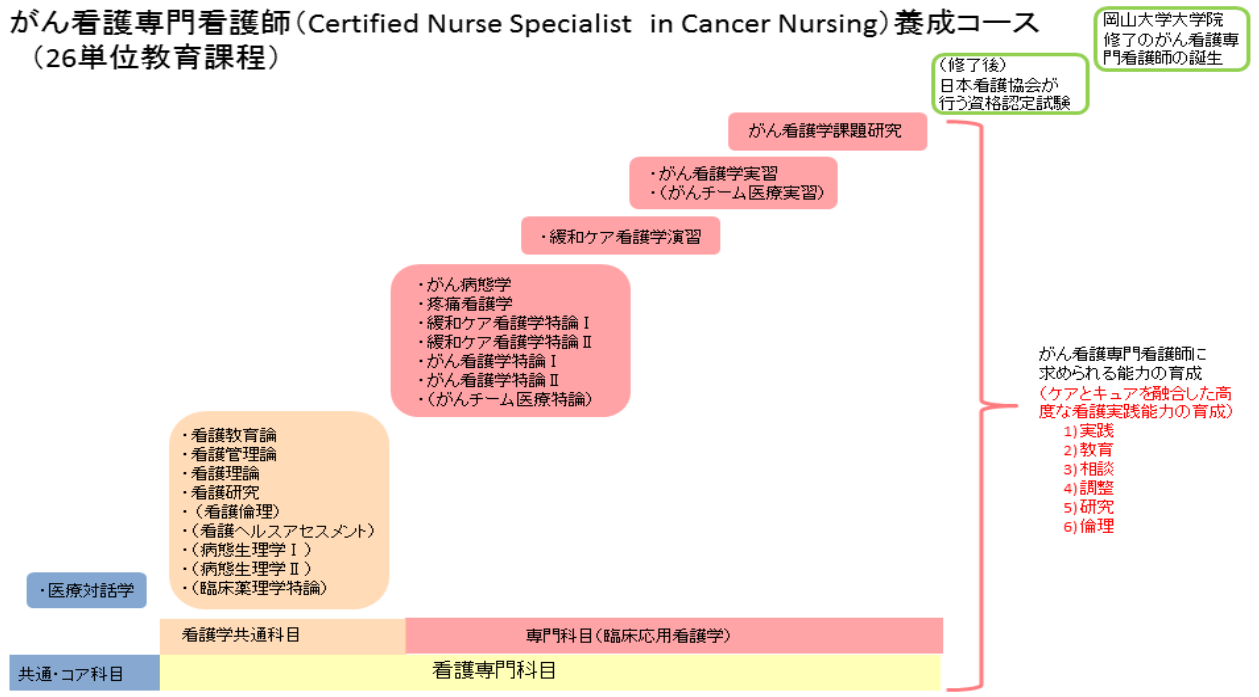
2 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

高度専門職業人の養成

博士前期課程の大きな役割に高度専門職業人養成がある。看護学分野では、がん看護専門看護師養成コースにおいて専門看護師を養成している(資料Ⅱ-I-9)。他の大学院の多くがフルタイムの学生を対象としているのに対し、社会人学生を専門看護師にするところに最大の特徴がある。教育上の工夫として、講義は1、2年次の夜間と土曜日に行い、3年次の実習期間をできるだけコンパクトにして、休職や休業期間を極力短くすることで、在職しながら資格取得を目指すことを可能としている。その結果、平成23年度1名合格、平成24年度2名合格、平成25年度4名合格、平成26年度3名合格、平成27年度3名合格と、着実に実績を残している。がん看護専門看護師は、大学院修了後に実習事例等を整理して提出した後に専門看護師試験を受験する必要があるが、これに対応すべく、大学院修了後も修了生に対してケアを継続している点も特徴といえる。

資料Ⅱ-I-9：博士前期課程(看護学分野)がん看護専門看護師養成コース

がん看護専門看護師(Certified Nurse Specialist in Cancer Nursing)養成コース (26単位教育課程)



がん看護専門看護師に求められる能力の育成
(ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力の育成)

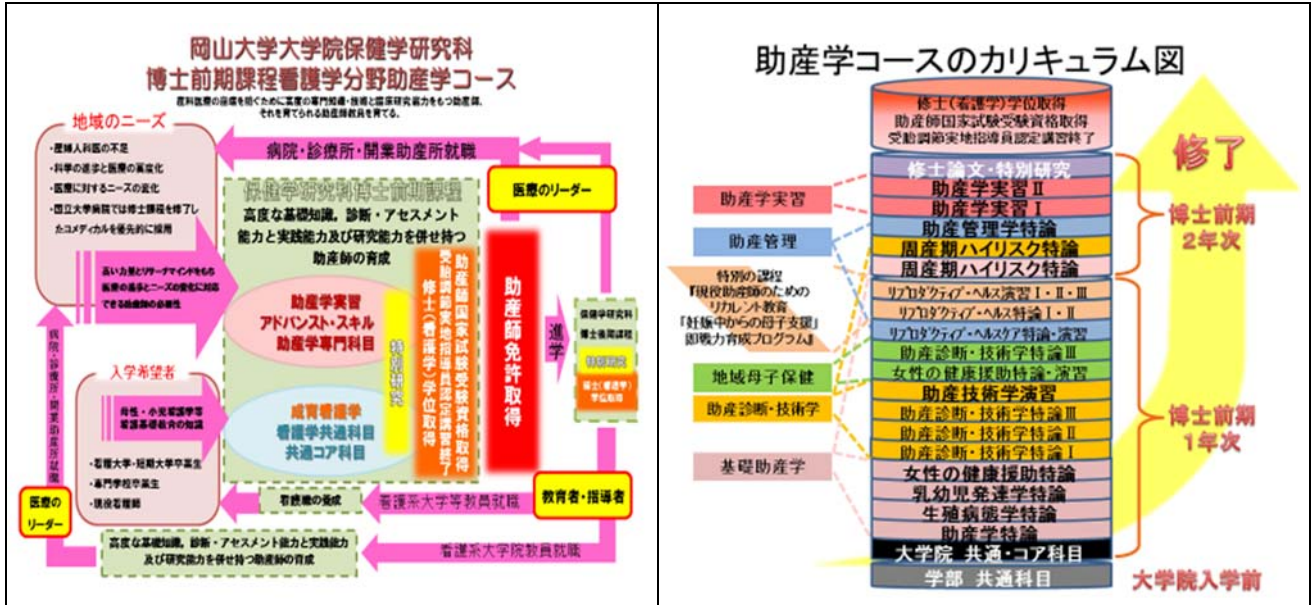
- 1) 実践
- 2) 教育
- 3) 相談
- 4) 調整
- 5) 研究
- 6) 倫理

- がん看護専門看護師とは
対象のQOLの向上を目的として、個人・家族及び集団に対して、ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供する。
出典：日本看護系大学協議会：平成25年度 専門看護師教育課程基準 専門看護師教育課程審査委員、2013
- がん看護専門看護師に求められる6つの役割
がん看護学領域において、
1) 個人・家族または集団に対して卓越した看護を実施する。(実践)
2) 看護患者に対しケアを向上させるための教育的機能果たす。(教育)
3) 看護患者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行う。(相談)
4) 必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションを行う。(調整)
5) 専門知識・技術の向上や開発を図るために実務の場における研究活動を行う(研究)
6) 倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行う。(倫理)

(出典：保健学研究科教務委員会資料)

また、平成24年度から助産学コースを博士前期課程に設け(資料Ⅱ-I-10)、専門学校3年+1年の標準的な助産師養成課程に比べて高度で専門的な助産師の養成を行っている(高卒後6年)。大学院としては異例の59単位を修了要件とするのみならず、実習科目の充実(修了要件中12単位が実習科目)に加え、研究コースと同様の修士論文作成も義務づけており、いわゆるリサーチマインドをもった助産師の養成という社会のニーズに応えるカリキュラムとなっている。

資料Ⅱ－Ⅰ－10：博士前期課程（看護学分野）助産学コースの概要

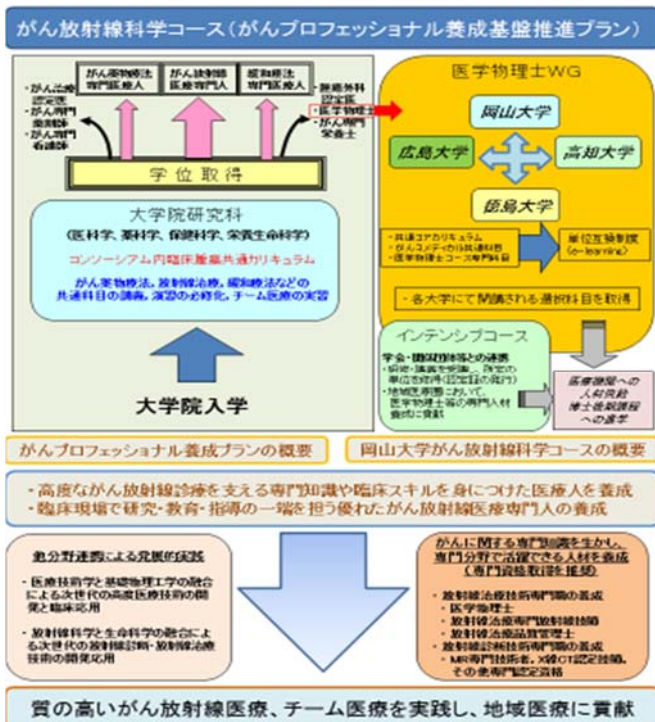


(出典：保健学研究科教務委員会資料)

新たな専門的医療人の育成

放射線技術科学分野では、今後のがん医療に不可欠の医学物理士コースを設置している（資料Ⅱ－Ⅰ－11）。また、放射線科学、原子力工学の知識を有し、原子力産業、放射性廃棄物処理に従事可能な技術者の不足に鑑み、自然科学研究科と共同で放射線安全・医療応用学コースを設け、必要な人材を育成してきた。その実績が評価され、本コースは平成 26 年度に、全学組織である耐災安全・安心センターの人材育成特別プログラム大学院生コースに昇格した。

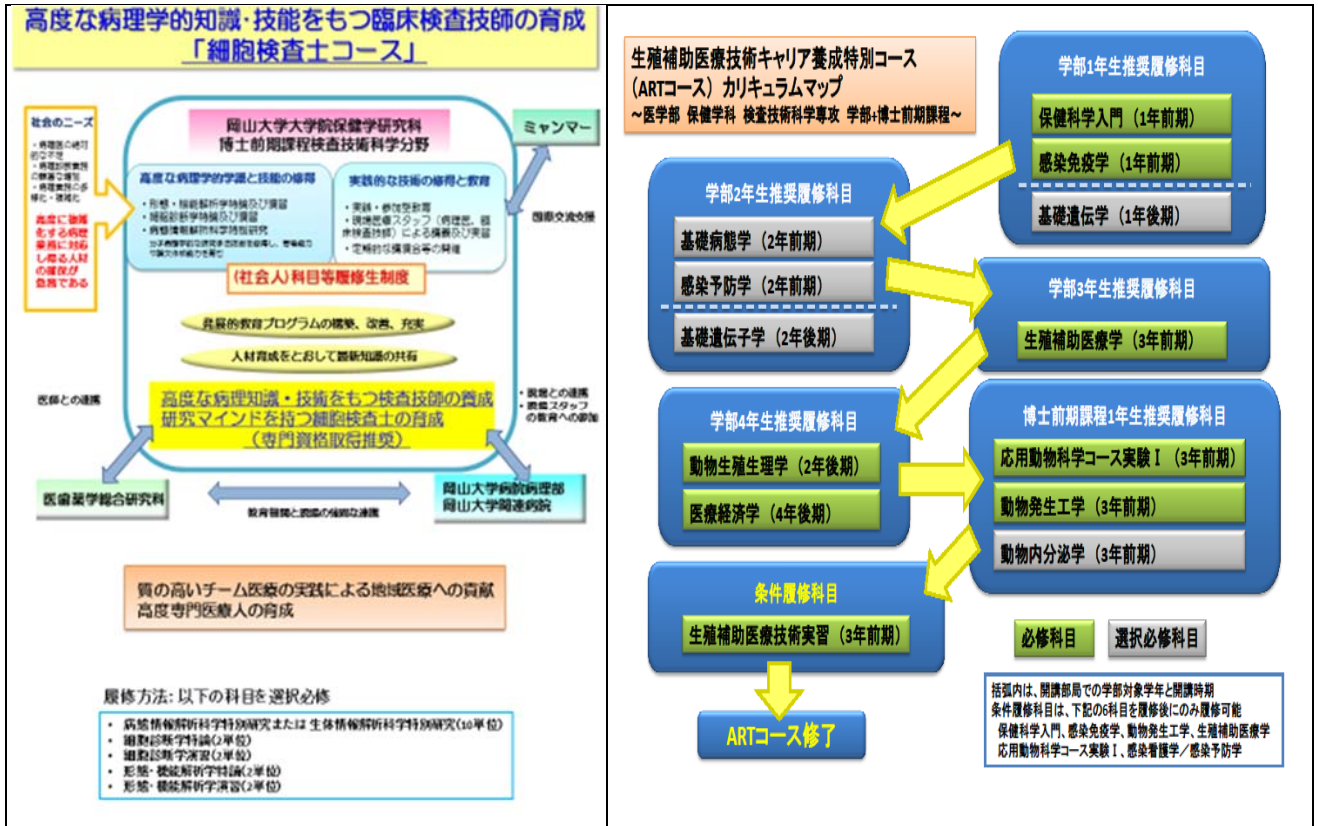
資料Ⅱ－Ⅰ－11：博士前期課程（放射線技術科学分野）がん放射線科学コース・医学物理士コースの概要



(出典：保健学研究科教務委員会資料)

検査技術科学分野では、細胞検査士の資格取得のためのカリキュラム改訂を行った（資料Ⅱ-I-12）。また、少子化対策の施策として重要な生殖補助医療技術者の養成課程を平成25年度に設置した。後者は、学部と接続して生殖補助医療技術者（胚培養士）を養成するフレキシブルな課程となっている（資料Ⅱ-I-12）。

資料Ⅱ-I-12：博士前期課程（検査技術科学分野）細胞検査士コース（左）、生殖補助医療キャリア養成特別コース（ARTコース）カリキュラムマップ（右）の概要



（出典：保健学研究科教務委員会資料）

将来の保健・医療・福祉の担い手としてのモチベーションを高めるため、看護学分野では、大学院学生が参加するヒアリングセミナーを平成16年度から月1回のペースで開催し、教員が順に自身の研究や専門領域の話題を提供してきたが、平成21年度からは、博士前期課程の中間報告会とのジョイント開催とした。これにより、大学院生と指導教員だけの閉じられた関係から、教員組織全体で各大学院生の研究の進捗状況を把握できる環境へ変革するとともに、若手研究者とのオープンなディスカッションを通じて、研究方法に新規性と安定性をもたらすことが可能となった。

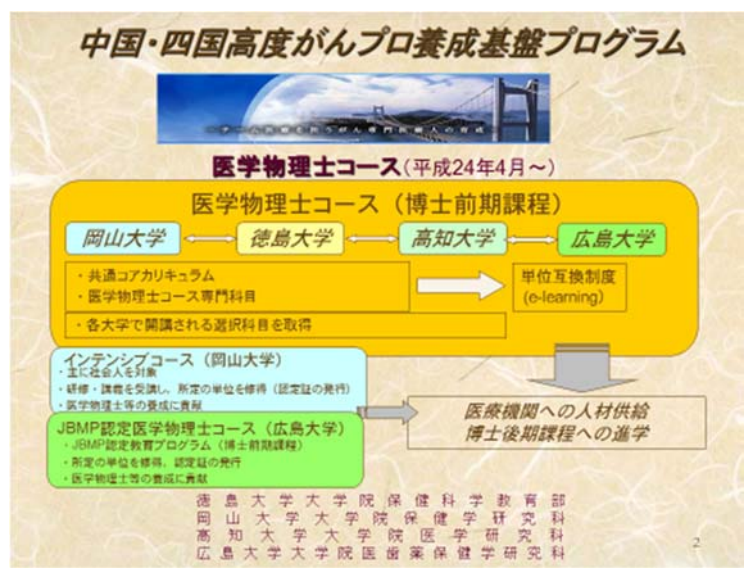
地域の医療人のニーズへの対応

① 放射線治療の臨床実務に従事している診療放射線技師を対象とした医学物理の教育トレーニングコース（インテンシブコース）による社会人のための教育的支援

平成19年度から展開された「がんプロフェッショナル養成プラン」に続き、平成24年度からは「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」として「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」が始動している（資料Ⅱ-I-13）。本研究科では、地域でがん放射線医療を担当する医療人を対象に、がん放射線科学コース（インテンシブ）を開設し、多数のインテンシブセミナーを開催。平成22年度以降、延べ2,767名が参加した（資料Ⅱ-I-14、別添資料2）。

資料Ⅱ-I-13：中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」では、既存の大学院博士前期課程における医学物理士コースの教育実績を踏まえて、社会人を対象としたインテンシブコースを開講し、コンソーシアムと地域がん拠点病院との連携強化や地域の指導者育成に向けたセミナー・実習活動を展開している。



(出典：保健学研究科教務資料)

資料Ⅱ-I-14：インテンシブコース（セミナー）の受入れ、輩出実績

・インテンシブセミナー参加者数

「がんプロフェッショナル養成プラン」（平成 19 年度～平成 23 年度）

	22 年度	23 年度	計
新規登録者	112 名	18 名	130 名
延べ参加者	447 名	410 名	857 名

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（平成 24 年度～現在）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	計
新規登録者	194 名	53 名	28 名	24 名	299 名
延べ参加者	827 名	449 名	376 名	258 名	1,910 名

・医学物理士試験合格者数

「がんプロフェッショナル養成プラン」（平成 19 年度～平成 23 年度）

	22 年度	23 年度	計
本研究科の合格者数	11 名	10 名	21 名
うち、インテンシブコース	9 名	7 名	16 名

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（平成 24 年度～現在）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	計
本研究科の合格者数	3 名	7 名	2 名	2 名	14 名
うち、インテンシブコース	2 名	7 名	2 名	0 名	11 名

・放射線治療品質管理士試験合格者数

「がんプロフェッショナル養成プラン」（平成 19 年度～平成 23 年度）

	22 年度	23 年度	計
本研究科の合格者数	5 名	6 名	11 名
うち、インテンシブコース	3 名	5 名	8 名

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」（平成 24 年度～現在）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	計
本研究科の合格者数	11 名	22 名	9 名	6 名	48 名
うち、インテンシブコース	11 名	19 名	9 名	6 名	45 名

・放射線治療専門放射線技師試験合格者数

「がんプロフェッショナル養成プラン」(平成19年度～平成23年度)

	22年度	23年度	計
本研究科の合格者数	15名	13名	28名
うち、インテンシブコース	13名	8名	21名

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」(平成24年度～現在)

	24年度	25年度	26年度	27年度	計
本研究科の合格者数	9名	13名	6名	5名	33名
うち、インテンシブコース	9名	12名	6名	5名	32名

(出典：保健学研究科年報)

② 放射性同位元素や放射線の安全取扱、管理に関する知識の向上や啓蒙の推進

東日本大震災に伴う原子力災害により国民の放射線に関する関心は高まっており、放射線に対する正しい知識と管理の重要性は高い。地域の診療放射線技師会等に協力して、放射線取扱主任者等の放射線業務従事者や学生の質的向上を目指し、地域の一般社会人も含めた各種関連講座を開設した(資料Ⅱ-I-15)。

資料Ⅱ-I-15：放射線に関する講座内容

講座名等：題目	開催団体名	開催日、場所、人数
放射線業務従事者等のための教育訓練講習会：放射線と放射性同位元素の安全取扱の実際―非密封放射性同位元素の取扱―	日本アイソトープ協会中国四国支部	平成22年5月14日、岡山市、約80名
出前講義：岡山理科大学附属高校進学医療コース2年生：放射線の基礎講座～放射線って、放射性同位元素って、放射能って、何？～	岡山県診療放射線技師会	平成22年12月1日、岡山市、約40名
放射線取扱主任者定期講習会：放射性同位元素の取扱に関する課目	日本アイソトープ協会	平成23年1月14日、岡山市、約30名
放射線業務従事者のための安全訓練講習会：放射線と放射性同位元素の安全取扱の実際Ⅱ―放射線発生装置の安全取扱・放射線の測定―	日本アイソトープ協会中国四国支部	平成23年5月13日、岡山市、約80名
日本学術会議緊急講演会：放射線を正しく恐れる	日本学術会議	平成23年7月1日、東京都、約300名
大洗町講演会：ラドン温泉の健康効果に関する最近の研究動向	茨城県大洗町	平成23年9月28日、大洗町、約250名
原子力・エネルギーに関する専門家派遣講演会(名古屋経大高蔵高校)：低線量放射線の健康への影響について	文部科学省	平成23年10月13日、名古屋市、約100名
放射線セミナー：放射線を正しく怖がり正しく活用する	倉敷商工会議所・山陽技術振興会	平成23年10月31日、倉敷市、約80名
原子力人材育成等推進事業第4回原子力道場：原子力・放射線と健康	文部科学省	平成23年11月19日、岡山市、約150名
西日本放送社員研修会：低線量放射線の健康影響	西日本放送	平成23年11月30日、岡山市、約30名
新見市教育研究会国際理解教育分科会： <u>学校で放射線をどう教えるか</u>	新見市教育研究会	平成24年8月7日、新見市、約50名

原子力・エネルギーに関する専門家派遣講演会：鹿児島高校：放射能（ラドン）温泉の健康増進・医療応用について	文部科学省	平成24年9月28日、鹿児島市、約90名
エンライトニングセミナー：低線量放射線の健康影響と医療応用	日本アイソトープ協会	平成25年7月6日、東京都、約120名
健康と温泉フォーラム：ラジウム・ラドン温泉の健康効果	NPO健康と温泉フォーラム、全国市長・町村会	平成25年9月27日、新潟県阿賀野市、約300名
女性のための勉強会エネルギー・環境ミニ講座：ラドン温泉（微量放射線）の健康効果を科学する	中国地域エネルギーフォーラム	平成26年7月30日、米子市、約30名
技術交流会：改めて放射線の健康影響を科学する	山陽技術振興会	平成26年8月1日、倉敷市、約30名
健康と温泉フォーラム：ラジウム・ラドン温泉の健康効果	NPO健康と温泉フォーラム、全国市長・町村会	平成26年10月1日、鳥取県三朝町、約200名
原子力人材育成等推進事業第5回原子力道場：放射線と健康	文部科学省	平成26年11月20日、岡山市、約150名
岡山大学耐災安全・安心センター公開講座：放射線の健康影響を科学する	岡山大学	岡山市、約50名
製薬放射線研修会：低線量放射線の健康影響と医療応用	製薬放射線コンファレンス	平成27年6月25日、広島市、約100名
原子力国民会議講演会：原子力の誤解を市民と考える	原子力国民会議	平成27年9月19日、松江市、約50名
入浴指導員研修会：ラドン（放射能）温泉の健康効果を科学する	鳥取県三朝温泉観光協会	平成28年2月19日、三朝町、約120名
岡山大学耐災安全・安心センター公開講座：原子力防災の現状と安全・安心を考える	岡山大学	平成28年3月5日、岡山市、約50名
放射線業務従事者教育訓練講習会：低線量放射線の健康への有益効果の可能性	自然科学研究機構核融合科学研究所	平成28年3月17日、岐阜県土岐市、約250名

（出典：岡山県診療放射線技師会雑誌）

（水準） 期待される水準を上回る

（判断理由）

本研究科の教育理念である全人的ケア、チームケアを具現化するための授業科目を適切に配置し、コースワークとリサーチワークを組み合わせた教育課程を編成している。社会のニーズに対応した高度専門職業人養成のため各種特別コースを用意し、研究者・教育者の育成と並んで助産師、がん看護専門看護師、医学物理士、生殖補助技術者、細胞検査士といった高度専門職業人の養成機能をさらに充実させた。特にがん看護専門看護師では、様々な教育上の工夫により社会人学生を専門看護師に養成している点が特筆される。地域の医療人のニーズに応えるべく開設したがん放射線科学コース（インテンシブ）のセミナーには延べ3,000名近くの社会人が参加し、各種資格試験においても合格者の多数を占めた。さらに、岡山県診療放射線技士会等に協力して、各種講習会を開催した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

平成 22 年度以降に博士前期課程に入学した学生の標準修業年限内修了率は 76.9%、博士後期課程は 15.9%である(資料Ⅱ-Ⅱ-1)。一見低い値に映るかもしれないが、本研究科は博士前期課程在籍者の半数前後、博士後期課程の 9 割前後が社会人学生(資料Ⅱ-I-4:p17-4)であり、長期履修制度を活用する者が多いことを考慮すると、修了状況は良好といえる。例えば、平成 26 年度博士前期課程入学者の、社会人学生を除く標準修業年限内修了率は 100%である。

資料Ⅱ-Ⅱ-1：標準修業年限内修了者数年次推移
博士前期課程

入学年度	入学者数	標準修業年限内修了者数	標準修業年限内修了率
平成 22 年度	28 名	21 名	75.0%
平成 23 年度	26 名	18 名	69.2%
平成 24 年度	30 名	25 名	83.3%
平成 25 年度	25 名	21 名	84.0%
平成 26 年度	25 名	18 名	72.0%
計	134 名	103 名	76.9%

博士後期課程

入学年度	入学者数	標準修業年限内修了者数	標準修業年限内修了率
平成 22 年度	12 名	3 名	25.0%
平成 23 年度	11 名	2 名	18.2%
平成 24 年度	11 名	2 名	18.2%
平成 25 年度	10 名	0 名	0 %
計	44 名	7 名	15.9%

(出典：保健学研究科教務資料)

2 資格取得状況、学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果

高度医療専門職としての資格取得

がん看護専門看護師は、非常に取得が困難な資格でありながら、第 2 期期間中に 13 名が合格するという実績を挙げた。助産学コース修了者の助産師国家試験合格状況は、毎年 100%という好成績を収めている(資料Ⅱ-Ⅱ-2)。

資料Ⅱ-Ⅱ-2：主な認定試験・国家試験合格状況(博士前期課程)

	がん看護専門看護師 合格者数	助産師	
		修了生数	合格者数(合格率)
平成 22 年度	0 名		

平成 23 年度	1 名		
平成 24 年度	2 名		
平成 25 年度	4 名	6 名	6 名 (100%)
平成 26 年度	3 名	6 名	6 名 (100%)
平成 27 年度	3 名	7 名	7 名 (100%)

(出典：保健学研究科教務資料)

研究成果の公表

博士前期課程、後期課程の学生は国内外で多数の学会発表を行っており、第 2 期期間内に国際学会で発表した件数は 45 件ある。そのうち検査技術科学分野の学生は、ベストポスター賞を受賞した。英語論文は、看護学分野 6 件、放射線技術科学分野 6 件、検査技術科学分野 4 件の計 16 件が英文誌に掲載された。平成 27 年度の博士後期課程修了者 6 名は、全員が英文のピアレビュー誌に論文を掲載し、学位授与された（資料Ⅱ－Ⅱ－3）。

資料Ⅱ－Ⅱ－3：博士学位申請と学位論文（平成 27 年度）

学位論文題目	掲載雑誌
Rigosertib induces cell death of a myelodysplastic syndrome-derived cell line by DNA damage-induced G2/M arrest	Cancer Science
The effectiveness of hand hygiene depends on the patient's health condition and care environment	Japan Journal of Nursing Science
Anxiety and Feelings toward Their Baby among Pregnant Women with Uterine Leiomyomas	Acta Medica Okayama
Altered autonomic nervous system activity in women with unexplained recurrent pregnancy loss	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research
Relationship between Bone Mineral Density and Body Composition Estimated by Dual-Energy X-ray Absorptiometry: Comparison between Groups Aged 20-39 and 40-59 Years	Kobe Journal of Medical Sciences
Evaluation of the balance capabilities of elderly people rising in the longitudinal direction	Advanced Biomedical Engineering

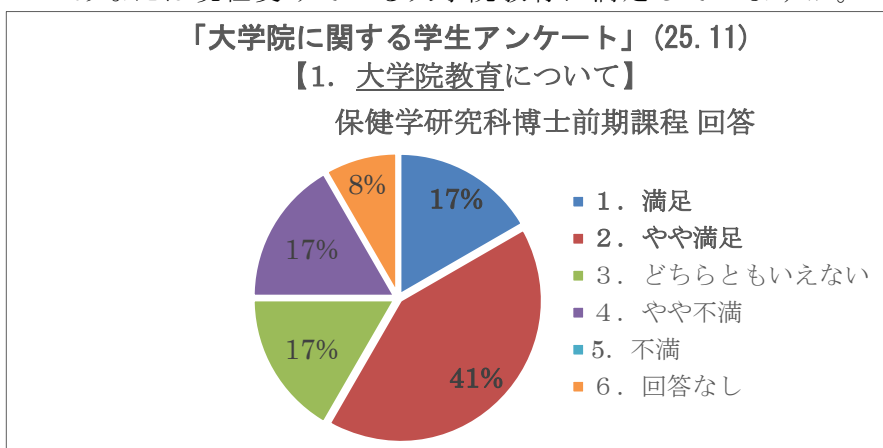
(出典：保健学研究科教務資料)

3 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

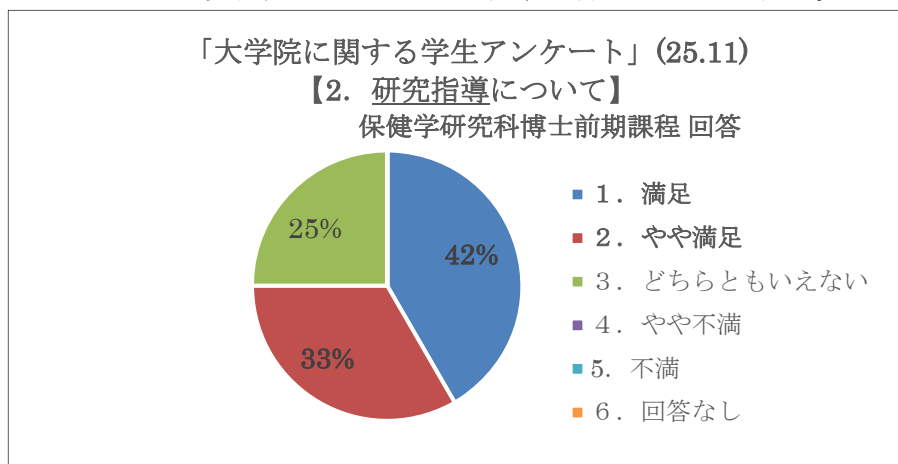
教育の成果を検証しフィードバックする仕組みとして、全学で取り組む授業評価アンケートがある。平成 26 年度実施分では、授業全体に対する総合評価（0～2 の 3 段階）で 1.58 と高い評価を受け、特に「教員の熱心さ」への評価の平均は 1.71 と非常に高かった。授業評価アンケートの結果は、教員個人へのフィードバックとともに教務委員会に報告され、改善点の検討が行われている。

修了予定者に対する調査では、「満足」、「やや満足」が教育で 58%、研究指導で 75% であった。具体的には、「社会人に配慮したプログラム構成と、熱心な指導により、取得が困難と言われるがん看護専門看護師の受験資格を得ることができた」、「学部教育では得られない、高度に実践的な助産師教育を受けることができ、感謝している」、「独立した研究者になりたいという気持ちが高まり、後期課程への進学を決めた」、「専門性に反映される臨床現場を確保してもらい経験を積むことができた」等の評価を得た（資料Ⅱ－Ⅱ－4）。

資料Ⅱ－Ⅱ－4：岡山大学大学院に関する学生アンケート結果（平成25年11月実施）
 5. あなたは現在受けている大学院教育に満足していますか。



12. あなたは現在受けている研究指導に満足していますか。



(出典：平成25年度第7回教育開発センター運営委員会資料)

(水準) 期待される水準にある
 (判断理由)

学生の多くが社会人学生であることを考慮すれば、課程修了状況は良好である。がん看護専門看護師認定審査合格者を輩出し、助産師国家試験合格率100%を維持していることに加えて、学生は積極的に国際学会発表や英文誌に投稿しており、平成27年度博士後期課程修了者は全員が英文ピアレビュー誌に論文が掲載されて学位授与されるなど、学習効果がみられた。複数アンケートの結果から、個々の授業に対する学生の評価は高く、教育・研究指導全般についても過半数の学生から一定の満足度が示された。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

高い就職率

第2期を通して博士前期課程修了生の進路をみると、保健・医療・福祉機関に就職する者が約66%、教育機関に就職する者が約9%、博士後期課程への進学が約13%で(資料Ⅱ-Ⅱ-5)、平成27年度の就職率は100%であった。博士後期課程修了生は、保健・医療・福祉機関に就職する者が約28%、教育機関に就職する者が約70%で、特に医療系教育機関が54%を占め(資料Ⅱ-Ⅱ-6)、平成27年度の就職率は100%であった。

博士前期課程修了者は主に保健・医療・福祉機関で活躍し、博士後期課程修了者は主に医療系教育機関で活躍していることがわかる。

資料Ⅱ-Ⅱ-5：博士前期課程修了者の就職・進学状況

	保健・医療・福祉機関	研究所	教育機関(うち医療系教育機関教員)	進学(うち医療系教育機関教員)	その他
平成22年度	14名	0名	7名(7名)	6名(1名)	4名
平成23年度	16名	0名	3名(3名)	4名(2名)	5名
平成24年度	18名	0名	2名(2名)	3名(0名)	2名
平成25年度	21名	1名	1名(1名)	5名(0名)	3名
平成26年度	18名	0名	0名(-)	1名(0名)	4名
平成27年度	19名	0名	1名(1名)	2名(1名)	0名
計	106名 (66.3%)	1名 (0.6%)	14名(14名) (8.8%)	21名(4名) (13.1%)	18名 (11.3%)

※進学先(博士後期課程)は、全て岡山大学大学院保健学研究科

※「その他」は、医療機関以外の就職先(一般企業等)を示す。

(出典：保健学研究科教務資料)

資料Ⅱ-Ⅱ-6：博士後期課程修了者の就職・進学状況

	保健・医療・福祉機関	研究所	教育機関(うち医療系教育機関教員)	進学	その他
平成22年度	3名	0名	3名(2名)	1名	0名
平成23年度	3名	0名	2名(2名)	1名	0名
平成24年度	1名	0名	9名(7名)	1名	1名
平成25年度	2名	0名	7名(6名)	1名	0名
平成26年度	2名	0名	7名(4名)	1名	0名
平成27年度	2名	0名	4名(4名)	1名	0名
計	13名 (28.2%)	0名	32名(25名) (69.6%(54.3%))		1名 (2.2%)

※「その他」は、医療機関以外の就職先(一般企業等)を示す。

(出典：保健学研究科教務資料)

大学教員・研究者の養成

博士前期課程、後期課程とも、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3分野の学生は共通の必修科目を履修する。共通必修科目は3分野の教員が協力してオムニバス方式の講義を行う等、組織的に研究者の育成を行っている。本研究科の学生は医療機関の職員のみならず医療系教育機関の教員となる者(資料Ⅱ-Ⅱ-5、-6)や現職教員の学生が多く(資料Ⅱ-Ⅱ-7、-8)、大学教員養成の面でも重要な役割を果たしている。

博士前期課程には、がん看護専門看護師養成コース（資料Ⅱ－Ⅰ－9：p17-8）、助産学コース（資料Ⅱ－Ⅰ－10：p17-9）、医学物理士コース（資料Ⅱ－Ⅰ－11：p17-9）、細胞検査士コース（資料Ⅱ－Ⅰ－12：p17-10）、生殖補助医療キャリア養成特別コース（資料Ⅱ－Ⅰ－12：p17-10）を開設しており、研究マインドをもった高度専門職業人養成大学院としての機能も果たしている。

検査技術科学分野は、バイオサイエンスの研究者養成機能も有しており、他の分野を含めて毎年博士前期課程修了後、本研究科の博士後期課程に進学しアカデミアでの研究者を目指す者も少なくない（資料Ⅱ－Ⅱ－5：p17-17）。

資料Ⅱ－Ⅱ－7：博士前期課程入学者の現職教員状況（医療系教育機関）

入学年度	看護学分野 入学定員 14 名	放射線技術科学分野 入学定員 6 名	検査技術科学分野 入学定員 6 名
平成 22 年度	2 名	1 名	0 名
平成 23 年度	2 名	0 名	0 名
平成 24 年度	1 名	0 名	0 名
平成 25 年度	0 名	0 名	0 名
平成 26 年度	1 名	0 名	0 名
平成 27 年度	0 名	0 名	0 名

（出典：保健学研究科教務資料）

資料Ⅱ－Ⅱ－8：博士後期課程入学者の現職教員状況（医療系教育機関）

入学年度	看護学分野	放射線技術科学分野	検査技術科学分野
	入学定員 10 名		
平成 22 年度	5 名	0 名	1 名
平成 23 年度	8 名	0 名	1 名
平成 24 年度	2 名	1 名	0 名
平成 25 年度	3 名	0 名	0 名
平成 26 年度	2 名	0 名	0 名
平成 27 年度	3 名	0 名	1 名

（出典：保健学研究科教務資料）

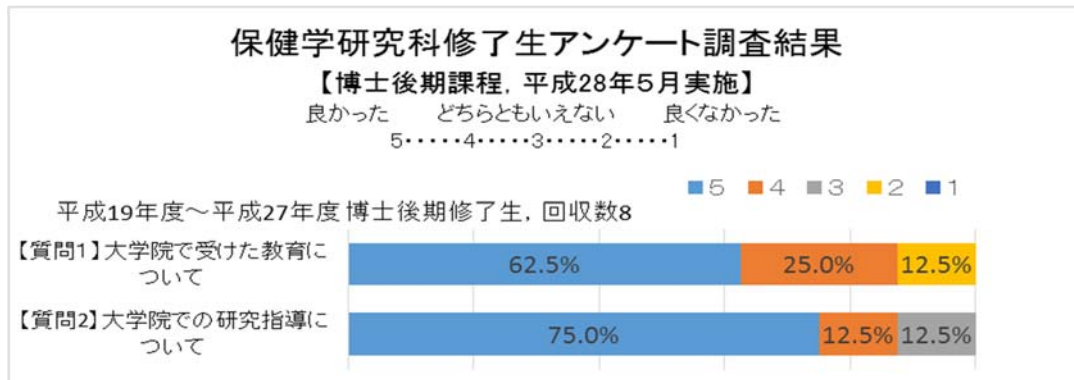
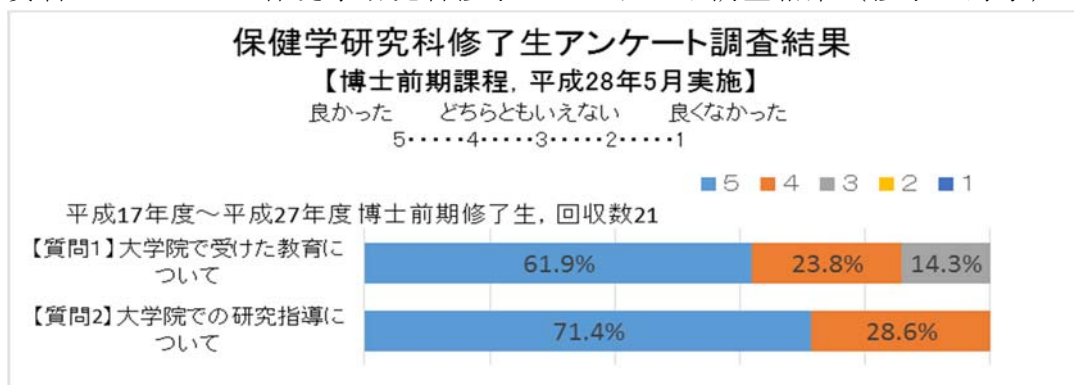
2 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

修了生及び進路・就職先関係者からの高い評価

修了予定者のアンケート調査（資料Ⅱ－Ⅱ－4：p17-16）と比べ、修了生のアンケート調査では、博士前期・後期課程ともに、全ての回答者が大学院での研究指導は「良かった」（5段階評価の5と4）と答えた。教育についても80%以上が「良かった」と回答した（資料Ⅱ－Ⅱ－9）。自由回答では、教育に関しては、高度専門職コースでは「自らの専門職としての役割の遂行はもちろん、他職種との連携、尊重、そして多方面から問題を考えることで、高度専門職業人としての役目を果たすことができる」といった指導を受けたこと、一般研究コースでは「現在、研究機関で研究員をしているが、現在の素地（知識・技能・態度）の多くは大学院時代に培われた」と思うといった良い評価を得た（別添資料3）。

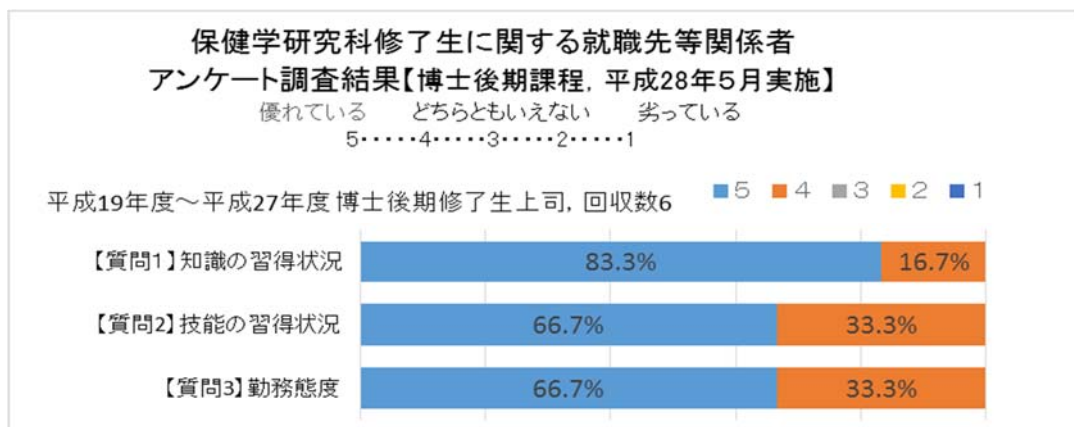
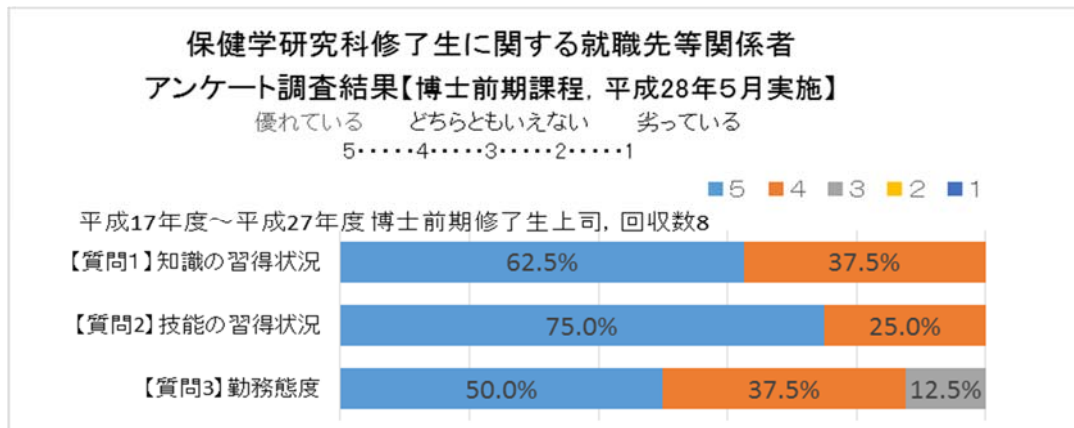
進路・就職先関係者への調査では、知識・技能の習得状況については100%、勤務態度についても90%近い回答者が優れている（5段階評価の5と4）と答えた（資料Ⅱ－Ⅱ－10）。自由回答では、「態度においても研究者として向上がみられた」、「研究に対する基本的な考え方、立案、遂行力、スキル等を身につけている」、「学位取得後もおごることなく日常の教育・研究業務に努めてくれている」といった高い評価を得た（別添資料4）。

資料Ⅱ－Ⅱ－9：保健学研究科修了生アンケート調査結果（修了生対象）



(出典：保健学研究科教務資料)

資料Ⅱ－Ⅱ－10：保健学研究科修了生に関する就職先等関係者アンケート調査結果



(出典：保健学研究科教務資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

博士前期課程、後期課程ともに平成 27 年度の就職率は 100%であり、安定的な就職状況が確保されている。第 2 期を通じて、博士前期課程は 7 割近い学生が保健・医療・福祉機関に就職し、博士後期課程は 7 割近い学生が教育機関に就職した。高度専門職業人、教育・研究者を養成するという本研究科の人材養成目的を果たすとともに、保健医療福祉機関や教育機関で活躍するという進路目標も達成している。また、アンケートの結果から、博士前期課程・後期課程ともに、本研究科の教育・研究指導に対する修了生からの評価は高く、加えて、修了生に対する進路・就職先関係者からの評価も高い。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1)分析項目Ⅰ 教育活動の状況

保健学研究科オープンフォーラムは、第1期は本研究科を対外的に認知させることが目的であったが、第2期は、学生にフォーラムへの参加を義務づけ企画段階から参画させることで、保健学について深く考えさせるとともに、医療現場への臨場感を体験することが将来の保健・医療・福祉の担い手としてのモチベーション向上に有効だった点で、改善、向上があった。

高度専門職業人の養成について、看護学分野では、第1期末の平成21年度にがん看護専門看護師養成コースを開設し、第2期に軌道に乗せた。他の大学院の多くがフルタイムの学生を対象とするのに対し、本学では社会人学生を在職のまま専門看護師にするという社会的ニーズに応えた教育課程を編成し、認定審査合格者を輩出した。また、第1期は大学院での助産師養成は行っていなかったが、高い学識と高度な実践能力を有する助産師の必要性を踏まえ、平成24年度から博士前期課程に助産学コースを設け、大学院では異例の59単位を修了要件とするほか、実習期間を充実させ、研究コース同様に修士論文作成も義務づけた。検査技術科学分野では、第2期に入って、細胞診断士、生殖補助医療技術者等社会のニーズに応える専門職の養成を開始し、修了生を輩出した。放射線技術科学分野では、今後のがん医療に不可欠の医学物理士コースを設置したほか、原子力発電所事故で注目が集まる放射線科学、原子力工学の知識を有し、原子力産業、放射性廃棄物処理に従事可能な技術者養成も行った。いずれも、社会のニーズに応えた新たな教育課程等を編成し、実績を残した点で、大きな改善、向上があった。

(2)分析項目Ⅱ 教育成果の状況

標準修業年限内修了率は、博士前期課程は第1期72.9%、第2期76.9%で、明らかな改善、向上が見られた。博士後期課程は第1期26.7%、第2期15.9%であったが、社会人学生の割合が第1期73.4%、第2期91.3%であることを考慮すると、水準を維持又は改善したといえる。

高度医療専門職の資格取得について、第2期に設置した助産学コースは助産師国家試験の合格率100%を維持しており、がん看護専門看護師も、第1期の資格取得者はいなかったが、コース設置後の第2期は13名の合格者を輩出した点で、大きな改善、向上があった。がん看護専門看護師は一見養成数が少ないように映るが、大学院修了後すぐには資格取得ができないことから分かるように、非常に取得困難な資格であることを考慮してこのように評価分析した。